

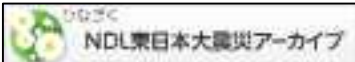
長岡 あーかいぶ 第 14 号

編集・発行／長岡市立中央図書館文書資料室

http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/?page_id=134

長岡市災害復興文庫 市内小・中学校の写真資料を 国立国会図書館 東日本大震災アーカイブ (愛称：ひなぎく) で公開しています

文書資料室は、国立国会図書館（NDL）と連携して、長岡市災害復興文庫の情報発信を行っています。平成 27 年度は「災害復興関連資料」の中から、平成 16 年の新潟・福島豪雨（7・13 水害）、中越大震災時の長岡市内小・中学校の被災状況などを撮影した写真データ約 2,000 点をウェブ上で閲覧できるようになりました。

国立国会図書館のトップページ (<http://www.ndl.go.jp/>) に表示されている「ひなぎく NDL 東日本大震災アーカイブ」のバナー()をクリックすると、簡易検索画面が表示されます。ウェブ閲覧したい写真の情報（学校名など）を入力してご利用ください。

学校や地域の防災・減災、避難所運営、災害史研究の参考資料として、お役立ていただけます。

長岡市災害復興文庫とは？

文書資料室は、平成 16 年の中越大震災発生直後から「歴史的資料の救済」と「震災関連資料の収集」を二本柱に災害対応を行っています。この取り組みの成果として、平成 26 年 10 月に誕生したのが、「長岡市災害復興文庫」です。平成 28 年 2 月末現在、「被災歴史資料」25,141 点と「災害復興関連資料」10,056 点の合計 35,197 点を公開しています。

国立国会図書館 東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」とは？

国立国会図書館が運営する、震災に関する記録等を一元的に検索できるポータルサイトです。国内外の様々な機関・団体と連携・協力しています。

※ひなぎくの詳細検索画面では、提供元に「長岡市災害復興文庫（長岡市立中央図書館文書資料室）」と「長岡市立中央図書館文書資料室」の 2 つが表示されます。写真のみを御覧になりたい場合は、「長岡市立中央図書館文書資料室」のみをチェックして御利用ください。

長岡市災害復興文庫—長岡市内小・中学校写真

写真は、画像でしか伝えられない真実を記録しています。まだ校舎内に人がいた日中に、刻々と水位が上がる様子を写した脇野町小学校の 7・13 水害の写真や、大規模な土砂崩れを起こした学区内の様子をとらえた柿小学校の中越大震災の写真など、どれも貴重な記録です。発災から 10 年以上経過して記憶が薄れつつある現在、写真を保存し続ける意義はさらに増しています。

災害がテーマのこの「文庫」ですが、心に残しておきたい写真もたくさんあります。中越大震災の際に撮られた右の写真、ぜひ「ひなぎく」で探してみてください。
(林朋子)



▲黒板に書かれた児童へのメッセージ
(平成 16 年 11 月 4 日 長岡市立六日市小学校職員撮影)

シリーズ 災害と文書資料室（9）

「長岡市災害復興文庫」の活用事例

平成 26 年 10 月 21 日、「長岡市災害復興文庫」（以下、災害復興文庫）を開設してから 1 年 5 か月が経過しました。これまでの活用事例を紹介します。

（1）レファレンス（調査相談）の回答に利用

災害復興文庫に関するレファレンスは全部で 3 件ありました。その内容は、①避難所運営に関する資料の中に災害と女性にかかわるものはないか、②長岡市総合防災訓練の防災学習のため写真を提供してほしい、③県外で長岡市の取り組みを報告する機会がある、東日本大震災の避難所資料の中にペット対応に関する資料があれば教えてほしい、というものでした。

文書資料室では、これらのレファレンスに対して、関連資料の一覧表を作成したり、関係論文を紹介したりする方法で、情報やデータの提供を行いました。

避難所運営に関する資料一つでも、女性の視点やペット対応など、災害復興文庫に求められている情報が、細かく幅広い分野にわたっていることがわかります。

（2）企画展で展示

平成 27 年度、文書資料室は 2 つの企画展を開催しました。災害復興文庫を市民協働で整理する長岡市資料整理ボランティアの発足 10 周年に合わせ、10 月に開催した「災害復興文庫展 2015～長岡市資料整理ボランティア 10 年のあゆみ～」と、東日本大震災 5 周年に合わせ、2 月から 3 月まで南相馬市立中央図書館（福島県）と連携して開催した「南相馬と長岡～絆の記憶と記録」です。

資料を通じて、長岡市が中越大震災後に行った被災歴史資料保全の取り組みと、東日本大震災後に行った避難所資料保全の取り組みを紹介することができました。



（3）図録に掲載

平成 28 年 2 月 22 日、文書資料室は新潟大学と連携し、矢田俊文・文書資料室編『新潟県中越地震・東日本大震災と災害史研究・史料保存―長岡市災害復興文庫を中心に―』を刊行しました。図録では、災害史研究と史料保存について考える素材として、災害復興文庫を活用しています。

東日本大震災から 5 年が過ぎた節目の年に発行したこの図録の内容が、被災地の復興に役立つ情報になることを願います。

以上が、これまでの主な活用事例です。

このように、長岡市民の実用的な資料として、また、東日本大震災の被災地の復興に役立つ情報として、さらには、全国各地の防災・減災に向けた取り組みの参考資料として、活用されていることがわかります。

災害復興文庫の活用法は、多様な可能性に満ちています。文書資料室では、今後も災害復興文庫の構築と発信を続け、活用事例を研究し、新たな活用法を提案していきます。（下玉利紀子）

★ボランティアメンバー募集のお知らせ



長岡市資料整理ボランティアは、中越大震災をきっかけに発足しました。月 1 回程度（主には第 2 木曜日）、互尊文庫などで古文書や東日本大震災避難所資料・災害に関する新聞資料の整理を行っています。また、新潟県内の他ボランティア団体との交流会や資料整理に関する研修会に参加することもあります。

長岡市資料整理ボランティアのモットーは、「楽しく学ぶ」です。皆さんも楽しく資料整理をしてみませんか？ 文書資料室まで、お気軽にお問い合わせください。

高橋翠村 1854(安政元)～1944(昭和19)

高橋翠村は、長岡藩士長沢茂昭（金太郎、号は赤城）の二男として生まれた。元の名を長沢茂二郎という。

長沢家は、初代貴茂の代から藩の馬政にかかわってきた。4代茂昭は徂徠学を学び、御厩御番役から藩校崇徳館の教授に登用される。戊辰戦争では使番をつとめ、会津飯寺の戦いで両肩を撃たれ戦死した。茂二郎は戊辰戦争の戦禍を避け、秋山郷に住む祖父茂泰（赤水）の弟茂由（赤山）のもとへ身を寄せる。戦後も長岡へは戻らず、明治3年（1870）、中魚沼郡川治村高山（現十日町市）の高橋家を継いだ赤山の養嗣子となった。その際、高橋茂一郎と改名した。翠村は号である。

安政2年（1855）より養父赤山はこの地で「赤山義塾」を開き、漢学を教えていた。近在から塾生が集い、茂一郎も共に学び、やがて指導者として赤山を助けるようになる。明治5年に学制が公布されると、高橋父子は十日町小学校の教師として招かれた。翌年、茂一郎は同校の初代校長となる。19歳の若さであった。

8年間の教職を辞し明治13年に上京、二松学舎（現二松学舎大学）で漢学を学ぶ。翌年帰郷して漢学塾「静雲精舎」を開き、農村の子弟に漢学を教えた。以来、上条義塾や養文舎などで教鞭を執り、同20年、新潟県農学校助教諭の職を得て、33歳で生まれ故郷の長岡へ戻る。

長命だった茂一郎（以下、翠村）は、人生の凡そ三分の一を妻有郷で過したことになる。以降、旧制新潟中学校などにつとめた数年間を除き、終世長岡に暮らしたが、漢学者且つ教育者・高橋翠村の確固たる土台は、この妻有時代に築かれたといっても過言ではないだろう。明治期の妻有の各界において活躍した人物の多くが、高橋父子の教えを受け、彼等を慕い、翠村が長岡へ去った後もなお永く交流が続いたという。

翠村は明治29年に旧制長岡中学校へ赴任し、漢文を教授した。長中在学中に翠村から教えを受けた海軍大佐・法学士の佐藤六平は『翠邨先生小伝』の中で、その授業風景に触れている。

「先生の漢文の教へ方は、智徳一体としてである。常にその漢文の主人公となり、作者の心境に入り、真に作者その人から教を受くるの感があつた。例へば出師表（漢文の教材名）を読み、解釈する時、先生自ら涙を流しつつ教へて曰く、出師表を読んで泣かざる者は忠臣に非らず（中略）、

精神的に真にその意味に徹底しなければ止まめと云気魄が窺われた。（後略）」

佐藤はこのような翠村の指導を「精神的教授振り」と名付け、多くの生徒に影響を与えたと述べている。翠村はその後60余年にわたって学校教育に従事した。

翠村の教えを受けたのは、学生ばかりではなかった。「無臭学舎」を開き、長岡の実業家や弁護士、医師、教師などを集め、漢学を講義した。また、大正8年（1919）より長岡孔子祭典会（後の斯文会長岡支部）の事業に携わり、大成させた。

『翠邨先生小伝』は、昭和16年（1941）に翠村の米寿を祝い、刊行された冊子である。「高橋翠村先生米寿祝賀会」が編集・発行した。翠村の教えを受けた者が集い、戦後最初の長岡市長で名誉市民となる田村文吉が編集長をつとめた。30頁に満たない小冊子ではあるが、翠村への感謝と尊敬の念にあふれている。近代長岡の発展の背後に、翠村の教えが息づいているのは確かである。

（桜井奈穂子）

【主な参考文献】

- ・高橋翠村先生米寿祝賀会『翠邨先生小伝』昭和16年
- ・互尊文庫『長岡の先賢』昭和16年
- ・長岡市史双書No.25『静雲精舎存稿』平成5年

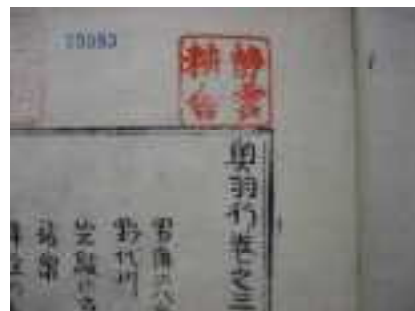
◆長岡市史双書No.55

『江戸時代の旅と旅日記(3)東北への旅②』刊行◆

長岡藩士の長沢茂好と植田勝應の東北地方探索日記「奥羽行」全8巻を翻刻しました。頒布価格1,500円。B5版143頁。

文化4年（1807）6月、新潟を出発し、青森は津軽地方を目指して山形・秋田を北上。帰りは岩手・宮城・福島を南下。松島や象潟、末の松山などの名勝巡りや、天明飢饉の聞き書き、東北諸藩の状況などを、絵図を交えて記録しています。

長沢茂好（号は存鬼）は翠村の曾祖父にあたります。『翠邨先生小伝』では「性情豪快機略縦横、又能く文筆の才に長じた」と紹介されています。



▲「静雲精舎」印が押された「奥羽行」巻之三（長岡市立中央図書館所蔵）。巻末には翠村の長男・亨の書き込みがある。

《新たに公開した所蔵資料一覧》※寄贈・寄託順。保管場所の都合等で当日閲覧できない資料もあります。

- ・新町尋常小学校卒業アルバム (近代、1点)
- ・屏風「富川大塊書」「柏木如亭書」(近世、2点)
- ・傘連判状(拓本、掛軸) (1点)
- ・『越後往来』 (近代、1点)
- ・雑誌『少女世界』他 (現代、9点)
- ・卒業文集『杉の子』 (現代、1点)
- ・直井時雄資料 (現代、320点)
- ・目黒書店発行教科書 (近代、2点)
- ・藁講資料 (近代・現代、7点)
- ・古志郡中村目黒家文書 (近世～現代、175点)
- ・『越後名寄』、目黒書店発行教科書他 (近世・近代、33点)
- ・日清戦争日記 (近代、2点)
- ・浦村山本家文書他 (近世・近代、9点)
- ・海軍資料 (近代、10点)
- ・福戸村職工組合資料 (近代・現代、24点)
- ・山田到処旧蔵掛軸 (1点)
- ・寺泊だより・寺泊新聞 (現代、35点)
- ・藤崎家家計簿 (現代、24点)
- ・野本互尊翁額 (近代、1点)
- ・『新潟表記録 天』他 (近代・現代、3点)
- ・徳永和夫旧蔵図書 (近代、2点)
- ・恩田家尺玉優等賞賞状・旗 (近代、2点)
- ・『日本外史』他 (近代、59点)

●資料紹介「支所だより・コミセンだより」

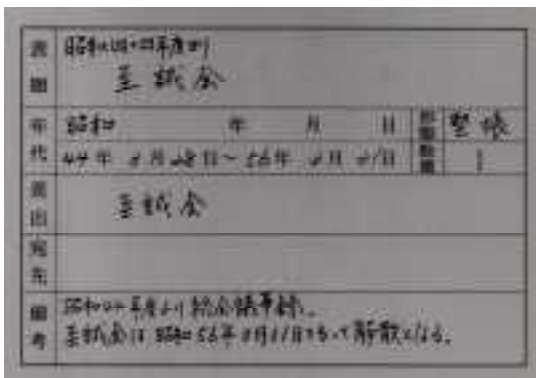
文書資料室では、昭和29年8月以降の市政だよりを保存・公開しています。市政だより英語版、平成の合併以降の支所だより・地区だよりも閲覧できます。地区ごとのファイルには、各コミュニティセンター発行のコミセンだよりも綴ってあります。発行のペースは地区ごとに異なります。紙面の構成などもそれぞれに特徴があります。

自宅のある地区以外のお知らせなどはなかなか見る機会がないものです。他の町内ではどんな活動をしているのか、地域活動の参考にのぞいてみてはいかがでしょうか？ (永井桃代)



●史料保存こぼれ話

文書資料室の業務の中心は、歴史資料(史料)の目録をつくり、公開して、市民の閲覧に供することです。表題、年代、差出、宛所、備考など、必要な項目を実際の史料を読みながら一つ一つ目録に記していきます。力を入れているのは備考欄です。史料に関する情報や綴りの形状、虫食いの状態などを丁寧に記します。目録は、史料と利用者をつなぐ大切な接点です。閲覧の際は、スタッフ一人一人の史料整理にかける情熱も感じていただければ幸いです。(田中洋史)



▲史料保存用封筒の表書(部分)

長岡市刊行物を郵送で購入できます

「じっくり読みたいけど遠くて買いに行けない」、「歩いて本を持ち帰るには重くて大変」という方、ぜひお気軽にお問い合わせください。詳しくは、文書資料室ホームページ(下記アドレス)をご覧ください。(上原美穂)
http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/?page_id=224

《編集後記》史料保存活動は、所蔵者、ボランティア、利用者の市民協働の取り組みに支えられています。室長になって1年、未来へ向けて、過去・現在の歴史を伝える仕事は重責ですが、日々の誠実な活動を積み重ねていきたいと考えています。(田中洋史) / 大災害からの節目の年が重なり、大きなイベントが多かったこの2年。「長岡あーかいぶ」を待っていてくださったみなさんに、ただただ感謝あるのみです。(林朋子)

平成28年3月31日発行

編集・発行：長岡市立中央図書館文書資料室

スタッフ：田中洋史、桜井奈穂子、下玉利紀子

林朋子、上原美穂、永井桃代

〒940-0065 新潟県長岡市坂之上町3-1-20

(長岡市立互尊文庫2階)

TEL 0258-36-7832 FAX 0258-37-3754

E-mail: monjo@lib.city.nagaoka.niigata.jp